

閉会中における産業経済常任委員会報告

平成24年4月25日9時半～

出席委員 鶴飼委員長、松山副委員長、石原委員、立入委員

説明員 三大寺市民環境部部長 他

中川上下水道部長 他

湖南省新火葬場建設計画について

笹ヶ谷火葬場はS47年、宮の森火葬場はS57年に竣工、老朽化が懸念されている。庁内で検討委員会（委員長 副市長）を立ち上げ、敵地選定をし、基本計画を策定した。選定にあたり、

- ・宮の森火葬場は、1538㎡で敷地面積が不可
- ・笹ヶ谷火葬場は、320㎡で、拡張するには保安林解除、造成の必要があり、そのために6年の機関と15億程の経費がかかるなど、リスクが多い。
- ・管理事務所敷地（4000㎡）は工期が短期間、経費が軽減できるので敵地と選定した。
- ・H42年を計画目標年度にして、人口、死亡者数を推計して、火葬炉は予備を含め4基。ペット炉1基、駐車場は普通乗用車57台、バス3台分を確保する。
- ・プロポーザル方式で、より自由な発想で設計される。
- ・スケジュールは、地元説明会（5月末）、都市計画審議会（8月）10月初めに決定し、縦覧期間を終えて、12月初めに入札、12月議会に提案の予定。との説明があり質疑へ。

Q PFIをやめた理由は？

A 検討もしているが、PFI導入した多くは斎場付きであり、火葬場だけの例は2件しかなくデータが少ない。運営は直営でなく委託で。

Q 地元説明とは、どの範囲か？

A 下田地区、水戸学区、石部学区、石部南学区。

Q 経済性に優れた火葬場とは？

A 2つがひとつになること

Q 何故プロポーザル方式にするのか、市内の業者がなかなか参加できないのでは？

地元業者を評価し、地元で税金が落ちることも考えるべき。

A 事業者の選定基準書に地元経済に配慮することを点数付けしている。

Q 跡地の利用については？

A 宮の森については墓地用の駐車場に。笹ヶ谷は未定。地元とも話し合いながら時代のニーズにあったものに考えていく。

Q 運営の費用は随意契約になっている。見直すべきである。

A 新火葬場は一つになるので、入札制度をとる。

Q 経済状況の悪い時に過剰設備ではないのか。

A 集中日の火葬件数を1基1日当たりの平均火葬数で除して理論的必要炉数を算出。

Q 夜も火葬していることもあるので、もっとフルに使えばこれだけの炉数は不要では。

A 年間500～600体。マックスは4件であり、それを想定すると過剰になるので省いて計算した。

意見として

1日に2体ずつ（1体4時間）火葬して、耐用年数10年から15年というのは、理解できない。検討委員会もそこまで踏み込んで計算していないのではないか。

人口に比して、4基の施設はやはり過剰に思える。

前回の委員会では場所について公表できなかった。

議会報告会で、議員は住民に説明責任もある。

設備と費用、耐用年数の関係を説明できるようにしてほしい。

など、意見や疑問点が数多く噴出し、長時間の審議となりました。

執行部の人事が変わったところで、明確な答えが得られない個所も多くありました。

24年度当初予算の1億円は建設の為の手付金。このことも含め予算審議の時にもっと具体的中身が提示されるべきであった、

今後どうなるのか？本日の委員会の意見はどう反映されるのか？

必要性は認めるので、予算は賛成したが、3年計画の入り口なのだからもっと納得できる答を改めて聞かせてもらいたい、何かの形で報告を、と申し入れました。

水道事業について

昨年度7回の運営委員会、経営検討部会がもたれ、料金改定についての答申が出された。

体系も含めて検討され、少量使用者への配慮（高齢者、単身者）を含んだ内容。

改定にあたる背景には、施設の老朽化、耐震化の必要性、自己資金の確保の必要性、合併以降料金の見直しがされていないことなどがある。

口径13mmが99%をしめ、一般家庭の使用量は、平均22m³

料金が一番高いのは日野町、安いのが、野洲市

改定により湖南市は高い方から4番目になる（12団体中）

60m³で9410円、改定率9%（700円アップ）

改定率は11%と15%を試算したが運営委員会から10%以内にとの指摘があった。

水道事業は独立採算が基本である。

料金の決定要因は

- ・水源の位置や水質
- ・県水の受水量
- ・地形（湖南市は4隅まで人口が集中、起伏が激しく水道施設が点在している）
- ・水道管などの施設整備の必要性
- ・人家の密集状況などであり、これが他自治体との料金の差にもなっている

加入金の見直しは実施しない

試算維持費を計上（給水サービスの維持向上・施設の維持のために再投資されるもの）

資産維持率を0.3%に。（標準は3%）

算定期間を24～28年の5年間とし、事業計画をたて、5年ごとに見直していく。

事業計画

新設改善 雨山送水設備・夏見・ワンワン山配水池と伴う配水管 12億5500万円
改修改善、配水管の布設、石綿管、管更新など 22億3400万円

財政計画によると、24年～28年、毎年1億円以上の赤字がでる。

料金改定期間はH25年から29年。25年4月1日より実施。5年ごとに見直す。

湖南省の水道事業は施設拡張の時代から維持管理の時代へと移り変わっている。

Q 値上げの必要性に苦慮していることがわかるが、地方公営企業法で一般会計からの繰り入れがどう議論されているのか

A 消火栓の管理費のみを繰り入れている、その他は料金収入だけで賄っている
一般会計の繰り入れについては下がっている。下水道事業と合わせて、総務省の繰入繰出基準を認識してもらうようにしていく。

Q 使用量収入の半分が県水への支払である。びわ湖を擁している滋賀県の者の方が、下流域の者より水道単価が高いのは納得がいかない、何故か？

県水をもっと安くするよう訴えるべきではないか

A 湖南省は93%を県水に頼っている。南部と東南部12団体のうち、南部は少し下がった。(数100万円)しかし28年度からは統一的な料金になると、県の意向。

南部の教議会は、今まで積み立てをしてきている。東南部も併せ400から500億。

県はさらに値上げを考えているようだが、絶対に阻止する。

中主の液状化に40億かかるが、どこまでやるのか。疑問をもっている。

下流域を含めた協議を是非していくよう県に訴える。

自己水7%は飲み水としての確保の為にも、絶対に守っていききたい。

Q 石綿管の更新について

A 石綿管(1700m)、老朽管の更新は下水道と合わせて計画的にしていく。

石部は単独で、甲西は下水道工事と合わせて工事をしてきた。石綿管は石部地域と水戸地域に残っている。

Q 大口割引制度の対象企業23社(2ヶ月で3000m³)が水道料に占める割合は？

A 5.2%で3億400万円程の収入になる

Q 割引による収入額の影響は

A 23社で100万円程度

Q 下水道の値上げも考えているのでは？

A 下水道会計への一般会計の繰り入れをどこまで出せるのか、にかかっている

24年度でこの議論をし、25年度で検討をしていきたい。

下水道に接続していない家もあるので、一般会計による税金投入は簡単には考えられない。

この後、水道事業施設の現地踏査をしました。